

第18回 筑前木屋瀬 今昔歳事記

紅屋泰助氏(故 柴田泰助氏)の「筑前木屋瀬今昔歳事記」の第18回目です。

今回は、「ひろば北九州」平成23年1月号の行事・風物について、前編としてご紹介させていただきます。

三か寺の「除夜の鐘」に続いて にぎわう須賀神社の歳旦祭

歳旦祭

周知の通り新年を寿ぐ歳旦開の祭りでございます。須賀神社では元旦の午前零時を期して執り行なうて居りますが、近年は初詣の参拝者が年々増加。其の数三千人とも四千人とも云われ、集中時は参道に百メートルを越える長蛇の列が出来程の人出となり、境内は大いに賑います。

此の賑い振りは、福引破魔矢・招福熊手・各種御神札・御守・暦の頒布と、氏子惣代会による御神酒の拝戴が作り出したものでございます。又、「筑前木驛 茶目つ気一輪」による年越し蕎麦・うどん・かつほ酒・ぜ

んざい・珈琲等の心の接待所や開運福引、さらには「歳旦祝賀献灯」と云った参拝者の受け入れ態勢が、その一翼を担って居ります。

歳旦祭の前に旧街道筋の長徳寺・西元寺・永源寺から除夜の鐘の音が響き渡ります。歳旦祭とその開始を告げる除夜の鐘。今では正月を迎える木屋瀬の風物となつて居ります。

思えば、私共が子供の頃(昭和20〜30年代)には想像も出来なかつた情景でございます。私共が子供の頃、須賀神社の宮司は兼務社である八所神社(野面)に在住されていた事情などもあり、歳旦祭は氏神信仰の厚き氏子惣代会の有志で執り行われていたようでございます。

又、当時の木屋瀬の商家は、大晦日の夜遅くまで商いや棚卸しに追われ、元旦は外出を嫌い、家内で正月を祝つておりました。この為、商家の家の者は氏神様には正月の二日か三日に家族揃つて参拝。八所神社より出向された宮司よりお祓いを受けるのが習いでございました。現在の様に、除夜の鐘と共に氏神様へ初詣に出掛ける習慣は昭和40年以降から

と私の記憶する処でございます。

因みに、正月三が日に戴く木屋瀬の雑煮は筑前風でございます。私の家の雑煮は、お湯でのぼした丸餅にすめの汁(焼きアゴの出汁では無く昆布出汁) 具は角切りの鱈・餅の下に敷く大根・椎茸・人参・里芋・カツオ菜・ミズ菜・スルメ・昆布と決まって居ります。なお、具は家々によつて相違があり、鶏・白菜などの入る雑煮もあるようです。

宿場往時より木屋瀬に伝わる注連焼を今に伝える行事でございます。氏子が正月の注連飾りやお札・お守り・破魔矢などを持ち寄つて焼き、神社接待の御神酒や餅に善哉を戴いて無病息災を願います。近年は青年会が境内に高さ10メートルにも達する「どんど焼飾り」を準備し、盛大に行なわれて居ります。

どんど焼

今年(平成23年)は1月16日に予定されて居ります。

つづく(記念館)

寄せ太鼓

道館部会
長崎街道木屋瀬宿記念館
長崎県長崎市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号(Tel.093-619-1149)

みんなが筑前いそぎで踊ろう宿場まどり

11月5日(日)

ここ三年間猛威を振るつたコロナウイルスもインフルエンザと同じ五類感染症へ移行し、少し平静を取り戻しつつあります。

我が町木屋瀬では今年も「宿場まどり」を十一月五日(日)に開催する事になりました。

この祭りは「木屋瀬の町並みや歴史と伝統」を伝え続ける為に「みんなで踊ろう・宿場まどり」をうたい文句に木屋瀬の魅力が町内外に知らしめる事を目的とした祭りで今年も二九回目になります。八月四日に木屋瀬自治会・街づくりの会・老人クラブ連合会・商工連盟・郷土資料保存会・宿場踊り振興保存会・商栄会・青年会の八団体による実行委員会を立ち上げ、実行委員長に木屋瀬自治会会長の山田 靖氏を選出して各部会長の選出も行



とぞ皆様の御支援を宜しくお願い申し上げます。

長崎街道木屋瀬宿記念館運営協議会 広報部長 藤 政文

われしました。八月二十三日の第二回実行委員会で各部会長から祭り準備の方針説明が行われ、今後各町内から選任された祭り各担当役員を含めた全体会議を行い、皆で一丸となつて準備と当日のお世話で祭りを盛り上げます。

今年も木屋瀬宿記念館をメイン会場に長崎街道で「木屋瀬宿場まどり」や近郷の「伝承踊り」を舞います。しかし、近年踊り手の高齢化や踊り手の減少で参加出来る団体が減り、今後の課題となっております。

そして、町中で町並み資料館・木屋瀬中学校吹奏楽部のパレード及び演奏・宿場探訪スタンプリー・青空市場(キッチンカー、マルシェ)・消防はしご車試乗・起震車による地震体験・木屋瀬小学校学習発表会に、昨年はコロナウイルスの感染対策で中止した町内綱引きを行います。

多くの皆様が家族と共に楽しむ祭りを目指しておりますので皆さんの参加を宜しくお願いします。また、この「宿場まどり」は木屋瀬町皆様の「参加と協力」無くして祭りは成り立ちませんので、何

新春イベント紹介



木屋瀬いろは歌留多大会

■日時 1月8日(月・祝) 10:00から
■会場 長崎街道木屋瀬宿記念館

こやのせ座

木屋瀬の文化と伝統が織り込まれた、木屋瀬ならではの歌留多大会です。新年恒例の行事ですので、子どもも大人も奮ってご参加ください。



こやのせ座

New Year コンサート2024

■日時 1月21日(日) 14:00から
■会場 長崎街道木屋瀬宿記念館 こやのせ座

響ホール室内合奏団の団員数名に出演を依頼して開催する恒例のコンサートです。毎回楽しみにしておられる方が多く、今回はどのような楽曲が披露されるかご期待ください。

第90回企画展

「街道のいいつたえ展」

会期：10月28日(土)〜12月17日(日)

会場：長崎街道木屋瀬宿記念館

みちの郷土史料館

※入館料が必要です。



江戸時代、九州で唯一の脇街道として長崎街道が成立したことをきっかけに、街道沿いの町や村には、これまで無いほどの多くの人・物・文化が行き交いました。これは伝説や伝承、または「言い伝え」なども例外でなく、各宿場町の言い伝えを調べてみると中には長崎街道を伝って伝播していったのではないだろうか、と考えられる類似した伝説・伝承が多く存在しています。本展では、そのような類似した伝説、その土地に根差した伝説、誰もが知る歴史上の人物に関連する伝説の他、まことしやかに囁かれている言い伝えなどを、地図と共にパネル展示で紹介する企画展です。

④ 鹿兒島、熊本、柳川、人吉、佐賀、大村
 ⑤ 久留米、島原、唐津、小城、蓮池、鹿島、平戸、三池、宇土の

木屋瀬は文明以前に開けた町であり、筑豊山野の水を集めて悠々と60kmを流れる遠賀川に育まれた。あらゆる文化の集結する町でもありました。
 古くから東の方の農業地帯を東部と呼び、西の方の商業地帯を町部と呼んでいます。
 東部が凡そ農業地帯であった時代の戸数は二四〇戸であった。此の全戸に全耕地を平等に配分すると一戸当たりの五反五畝(550アール)にすぎず僅少農業地区と言える。米麦を主産物とし養蚕事業も盛んに行われている。農村工業として製茶産業も筑豊銘茶として有名である。
 町部は旅をする人や大名行列やお伊勢参りの人々で大賑わいを見せていた。

（必ず木屋瀬泊りと定めた御得意大名）

明治十五年二月十六日郵便貯金業務始まる。福岡県内の貯金業務開始順位一番久留米、二番柳川、三番小倉、九番木屋瀬、十四番福岡、三十番直方
 明治二十二年加藤周助氏、中西



わたしの昔話

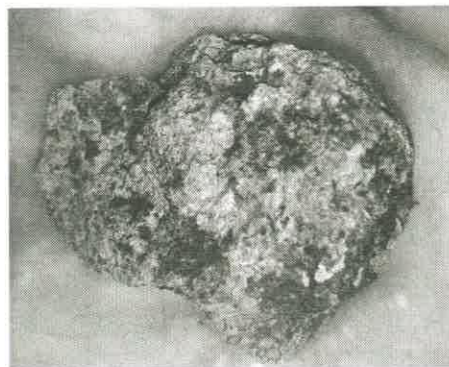
号とも言える郵便所が木屋瀬本町に出来る。此の木屋瀬郵便所の受持区は木屋瀬、植木、中間、香月である。
 明治十五年二月十六日郵便貯金業務始まる。福岡県内の貯金業務開始順位一番久留米、二番柳川、三番小倉、九番木屋瀬、十四番福岡、三十番直方

十五大名
 これ以外の大名も泊っている。
 （必ず木屋瀬に買い物に来られる御得意地区）
 感田、頓野、植木、新入、中山。底井野、中間、香月、上津役、其の他
 木屋瀬土産、ピータラ餅
 明治四年十二月五日 九州第一

七三郎氏、松尾貞氏共同にて金剛炭坑開発される。分坑椎森抗・高江坑他炭坑主名にて呼ばれる大小の炭坑が次々に開発され大石炭生産地区となり木屋瀬は大きく栄えた。
 明治四十五年 野面より香月まで鉄道開通す
 （教育）
 明治六年 野面、笹田、金剛は野面に共同校舎を設ける。
 明治七年 町部は本町石橋佐蔵氏宅に校舎を開く。
 明治八年 町部は須賀神社境内に校舎を新築す
 明治十七年 町部は当時の区役所出長所地に校舎を新築す
 明治二十九年 現在の小学校地に校舎を新築、野面木屋瀬合併
 明治三十四年 高等科を置く
 大正十三年 青年学校併置
 昭和九年 全町学校開設
 昭和十年 講堂建設事業
 昭和二十二年 学校組合立
 木屋瀬中学校創立

長崎街道木屋瀬宿記念館 学芸員 加藤悠

木屋瀬宿記念館 収蔵品紹介「まんじゅう石」



この石は、今から約8万年前に起こった阿蘇山大噴火の火山灰が地下水の作用で変質したことで出来た石です。外は白い粘土、中は黒い鉱物によって構成され、まるで“まんじゅう”のような見た目をしているため、この名が付けました。また、八幡西区楠橋には、この石に関するこんな言い伝えもあります。
 まんじゅう売りの老婆に、みすほらしい恰好をした僧がまんじゅうを1つ注文した。しかし、老婆は僧へ売ることせず、まんじゅうを足元に放り投げた。僧は仕方なく去っていったが、その後店先のまんじゅうを見ると全て固い石になっていた。
 楠橋付近では現在でもまんじゅうに似た石が掘り出されることがあるようです。

宿場町木屋瀬。伝統を受け継ぎ、次世代を育む長崎街道木屋瀬宿記念館。

柴田豊廣公民館講座より

本町 柴田由美子

シリーズ

文化の薫る町 木屋瀬

第九回

祇園会 山笠の起源

祇園といえは、博多と言われるように、760年の伝説を誇り、歴史的にも文化的にも、この地域一番の祭りであると思われまふ。起源については、諸説ありますが一番有力なのが鎌倉時代、仁治2年(1241)博多で疫病が流行った際に、承天寺の開祖、聖一國師が施餓鬼台にのって祈禱水を撒きながら町を清め疫病退散を祈願して回ったことを発祥とする説が有力です。

長崎街道 筑前飯塚宿の山笠の起源

長崎街道筑前の国、飯塚宿の山笠は博多写しともいわれまふが、山笠のルーツは、今から290年前、享保十七年(1732)この地域が災害に遭い飢饉に陥り多数の死者を出した。このような災難から逃れるため京都の八坂神社から、スサノオノミコトを「のう祖八幡宮」へ勧請しお祀りした。その際、奉納の山鉦、山車、地車、などが姿を変え、博多山笠の形式に似た姿に変わり飯塚宿の山笠に伝わったとされています。



筑前飯塚宿の山笠

長崎街道 筑前黒崎宿の山笠の起源

筑前の国、黒崎宿の祇園は、400年の歴史を持つと伝えられる祭りで、徳川時代の初期黒田藩祖長政公が、

慶長五年に井上之房に命じ岡田、春日両宮に須賀大神を奉納せしめた。その祭礼として、氏子が山笠を建て祝ったとされている。このことが黒崎祇園の起源とされています。この山笠は人形山笠で車輪が付き動きが激しく「喧嘩山笠」の異名をもつています。



筑前黒崎宿の山笠

長崎街道 筑前木屋瀬宿の山笠の起源

嘉永二年(一六二九)須賀神社を再興した木屋瀬の豪商伊藤宗伯は、神殿の梁に社殿と山笠一基と能面を奉納すると記していました。鞍手郡誌にも、木屋瀬祇園は郡中で一番盛大で寛永以前より他村の加勢人を受け入れ盛んに担ぎしとある。嘉永以前から、建立されているので、木屋瀬の山笠の起源は須賀神社の創建とされる。永享元年(1428)から、嘉永二年(1625)の間と想定されます。確かな年号は不明ですが山笠の起源を嘉永とすれば六百年の伝統を持つ行事です。又 郡内一と言われる見事な山笠の姿は江戸期に描かれた参籠殿に残る絵馬が物語ります。



筑前木屋瀬宿の山笠

祇園会や家並を越える人形山

本町 野口靖彦

告知!!

こやのせ座落語会

北九州市出身の真打落語家である林家きく磨さんをお招きし、こやのせ座にて毎年恒例の落語会を開催いたします。芸術の秋に是非一度いらしてみたいかがでしょうか



日時：11月3日(金・祝)
 開場13:30 開演14:00
 会場：長崎街道木屋瀬宿記念館
 こやのせ座
 入場料：大人1000円(当日1200円)
 中学生以下 500円(当日600円)
 定員：先着150名(全席自由)
 ※電話での予約制
 申込先：長崎街道木屋瀬宿記念館
 TEL 093-619-1149

文化発信の寄せ太鼓。こやのせ座発、全国行き。

ホームページ http://koyanose.jp